

令和3年度 第5回いちき串木野の歌人 萬造寺齊顕彰

黎明の地 ふるさと短歌大会集



萬造寺齊顕彰の歌碑（羽島崎神社境内）の隣に設置された
大会入賞者の短歌（プレート看板）

主催 羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後援 鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
市文化協会・南日本新聞社・れいめい羽島協議会



表紙題字 堂元一静 氏(書道家:いちき串木野市出身)

〔主な経歴〕

2003 世界水フォーラム動書大賞受賞

2005 日本書道美術院展かなの部 全日本書道連盟賞受賞

2006 " 毎日新聞社賞受賞

その他数々の賞を受賞し、多くの個展を開催している。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって	いちき串木野市長	田畑 誠一	1
選評	審査委員長	鶴田 直樹（歌人）	2
黎明の地ふるさと短歌大会の概要			5
大賞および各部の最優秀賞			8
小学生の部			11
中学生の部			22
高校生の部			33
一般の部			43
留学生の部			49
応募校一覧			51

令和三年度いちき串木野の歌人 萬造寺齊顕彰

第五回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長 田畑 誠一

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では、活力ある教育・文化の振興を図り、「ふるさとを愛し 夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、黎明の地羽島地区では毎年、羽島出身の歌人「萬造寺齊」先生を顕彰するため、萬造寺齊先生の墓前で先生がふるさとを思つて詠まれた望郷歌を歌うなど顕彰活動を行つてまいりました。平成二十九年には先生の没後六十年を迎えるにあたり、地域の有志の皆さんが集まつて、小説「緑の国へ」も出版されました。

このような中、市といたしましても、近代日本の礎を築く原動力となつた薩摩藩英国留学生が命がけで出発した地でもある羽島に薩摩藩英国留学生記念館を建設し、その偉業をたたえとともに、行政と地域が一体となつて青少年の育成や地域文化の保存、地域活性化に取り組んでいるところです。

この短歌大会は、こうした歴史的背景のある羽島で生まれ育つた歌人「萬造寺齊」先生の顕彰とともに、市民が短歌に親しむことを通じた文化の薫るまちづくりの一環として実施しています。

今年が大会が始まつてから五回目の節目の年となり、五月二十日から約二ヶ月の間、作品を募集したところ県内各地から三、八二十点もの作品が集まりました。集まつた作品は、県歌人協会の御協力の下、厳正なる審査を行い、十一月七日、いちきアクアホールにおいて三十一名の方々を受賞されたところです。

この大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては文化の振興につながることを期待して刊行にあたってのあいさつといたします。

選評

審査委員長（鹿児島県歌人協会会長） 鶴田 直樹

いちき串木野市羽島出身の歌人萬造寺斉を顕彰して始まった黎明の地ふるさと短歌大会も第五回を迎え、コロナ禍にかかわらずこれまでで最多の三八二〇首の歌が寄せられました。作品をお寄せ下さった皆様、ありがとうございます。

ふるさととは潮干の磯にうち群れて村の少女ら石尊搔くころ

萬造寺斉が生涯愛したこの地の短歌大会に、年年歳歳素晴らしい短歌作品が寄せられています。斉の思いを令和の世につないでくださった地域の皆様に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大のため、地域の祭りや学校行事が中止されたり部活動が制限され、本年はこうしたテーマの歌が大変少なくなりました。それでもこうした時代を生きる秀歌が寄せられ、選考委員一同感動いたしました。

第五回黎明の地ふるさと短歌大会大賞の榮譽に輝いたのは、霧島中学校二年 久保田笑弥さんの歌です。

学校へ向かぬ気持ちちを木洩れ日は我を励まし背を押しくれる

長い学校生活の中では、学校に行きたくない日もありますね。そんな日通学路の木洩れ日が、自分を励まして背中を押ししてくれた。揺れ動く気持ちちと木洩れ日があっています。思春期のナイーブな感覚を捉えた秀歌です。

次に各部門最優秀賞は次の歌です。

小学生の部 最優秀賞

桜島白いいかりが空つつむ黒いいかりも地面をつつむ

伊敷小学校六年 小野絢翔

桜島が噴火し噴煙を白いいかり、そして降灰を黒いいかりとした視点が面白い歌になりました。白と黒、空と地面、そして言葉のリフレインが効いて、歌にリズムを生んでいます。

中学生の部 最優秀賞

思い出の森のはずれで立ち尽くすソーラーパネルに埋め尽くされて

霧島中学校二年 松木皇君

ここ数年で日本の中山間地の棚田や畑は耕作放棄され、ソーラーパネルに埋め尽くされてしまいました。自然エネルギーへの転換は良いことかもしれませんが、作者は故郷の自然が損なわれているような寂しさを感じているのでしょう。言葉優しく社会への風刺を効かせた素晴らしい一首です。

高校生の部 最優秀賞

電車通束縛されているような時刻表を見て運ばれてゆく

川内商工高等学校一年 前屋洸乃介

地方の公共交通機関は人口減少と共にダイヤが年々少なくなり、通学にも影響しているのでしょう。部活の時間や時間割とダイヤが合わず、時刻表に合わせた学校生活を送り、それを束縛されていると詠み一首にまとめ上げています。結句の運ばれてゆくが歌の核となっており、電車と時刻表に同時に運ばれてゆくような不思議な感覚で、時代を切り取った良い歌です。

一般の部 最優秀賞

枝繁き榕樹の陰を教室に米軍統治の島に学びし

鹿児島市 石原百合子

戦後沖縄だけでなく、鹿児島島の離島もしばらく米軍統治が続きました。教室も戦火に焼け、ガジュマルの木陰で授業が始まった。生活もままならない中、何より子どもたちへの教育が必要と戦後教育を始めた教育者たちの熱い思いが伝わります。当時の子どもの視点で戦後史を記録する貴重な一首です。

留学生の歌から一首

トントントントントんほんのり甘い東北菜祖母作る味吉林の味

神村学園専修学校日本語学科二年 矯きょう 傑けつ

東北菜は中華人民共和国の東北地方の料理。広い中国だけあって、四川、広東、北京料理と、その食の個性も豊か。東北菜は水餃子など、肉や野菜たっぷりの料理と聞きました。御祖母が家族のために料理する包丁の音が、今も思い出されるのでしょうか。調べも整い、日本語もかなり上達したことが分かりました。

以上大賞等一部だけ紹介しましたが、他にも秀歌が多く議論は熱を帯びました。秀作揃いの学校も多く、先生方のご指導の賜物と思います。この大会で短歌に触れ、素晴らしい作品を作った皆さんが、これからも日々の思いを短歌に残していつて下さることを願っています。

最後にいちき串木野市をはじめ実行委員の皆様、そして新型コロナウイルスの感染拡大で学校運営に大変なご苦勞をされている中、応募して下さった各学校の先生方に心より御礼申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一 趣 旨

本市が輩出した歌人、萬造寺斎氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し 夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」の体現を目指します。

二 主催等

- (一) 主 催 羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
- (二) 主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
- (三) 後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三 応募作品数について

- (一) 小学生の部 千四百三十四首
 - (二) 中学生の部 千五百三首
 - (三) 高校生の部 六百二十八首
 - (四) 一般の部 二百五十三首
 - (五) 留学生の部 二首
- 計 三千八百二十首

四 各賞について

【入 賞】

- 大 賞 全部門の中から一名
 - 最優秀賞 各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
 - 優秀賞 各部門一名
- 〃

市長賞 各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
 県歌人協会賞 各部門一名
 選者賞 各部門一名
 教育長賞 各部門一名
 南日本新聞社賞 各部門一名
 留学生賞 各部門の中から四名（今年度は二名）
 特選 【小 二十首】 【中 二十首】 【高 二十首】 【一般 二十二首】
 入選 【小 三十二首】 【中 三十首】 【高 三十首】 【一般 二十八首】

五 表彰式について

日時 令和三年十一月七日（日） 午後一時三十分から

会場 いちき串木野市「いちきアクアホール」

式順 〈オープニング〉萬造寺 斉の紹介

開会のことば

実行委員会あいさつ……………川口勝則会長

市長あいさつ……………田畑誠一市長

来賓・主催者紹介

表彰

選評……………鶴田直樹審査委員長

閉会のことば

六 選者（予備審査及び本審査）

鶴田 直樹

所属等 県歌人協会会長 にしき江主幹 読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表彰 平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）

作品 現代鹿児島短歌大系 21

鏑流馬 みどり

所属等 県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成副委員長 結社「黎明」運営委員

表彰 平成九年黎明賞（結社賞）受賞 平成十五年平成の歌会平安神宮賞受賞

黒瀬 圭子

所属等 県歌人協会運営委員 にしき江編集委員

表彰 第七回海南賞（結社賞）受賞

寺地 悟

所属等 県歌人協会運営委員 南船社編集委員 日本歌人クラブ鹿児島県代表幹事

表彰 平成四年鹿児島新報文学賞 平成三十年第33回国民文化祭文部科学大臣賞

平野 淳子

所属等 県歌人協会会員 山茶花社会員（結社名「山茶花社」）

表彰 平成二十七年山茶花賞受賞

川口 俊一（一次選者）

所属等 県歌人協会運営委員 山茶花社編集発行人（結社名「山茶花社」）

大賞・各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会 大賞】

学校へ向かぬ気持ち
を木漏れ日は

我を励まし背を押し
してくれる

霧島市立霧島中学校二年 久保田 笑弥

【小学生の部 最優秀賞】

桜島白いいかりが空つつむ黒いいかりも地面をつつむ

鹿児島市立伊敷小学校六年 小野 絢翔

【中学生の部 最優秀賞】

思い出の森のはずれで立ち尽くすソーラーパネルに埋め尽くされて

霧島市立霧島中学校二年 松木 皇君

【高校生の部 最優秀賞】

電車通束縛されているような時刻表を見て運ばれてゆく

県立川内商工高等学校一年 前屋 洸乃介

【一般の部 最優秀賞】

枝繁き榕樹の陰を教室に米軍統治の島に学びし

鹿児島市 石原 百合子

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

ともだちをみおくるフェリーかみテープながくなったらなみだこぼれた

薩摩川内市立里小学校一年 石原 真桜

【市長賞】

すえまるできあしゅっぱつだじいちゃんとぴんくのたいと一ぽんしょうぶ

薩摩川内市立里小学校一年 久保田 漣

【県歌人協会賞】

虫かごのクワガタながめるみんなの目きようからきみもぼくらのかぞく

いちき串木野市立市来小学校二年 町田 一晟

【選者賞】

帰り道黄昏時の水田にうつる私は一歩先き行く

始良市立蒲生小学校六年 中島 妃咲

【教育長賞】

ひらひらとかんのんが池にまいおちるさくらみるころ一つせいちょう

いちき串木野市立串木野小学校四年 池端 歩奈

【南日本新聞社賞】

パソコンでドリルをやっしてしておわるシャットダウンりんごのマーク

いちき串木野市立川上小学校三年 小牟田 ひまり

【特選】

夏の日に密になれないもどかしきやりたいことがありすぎるのに

阿久根市立阿久根小学校六年 小崎 莉愛

青い海きらきら光すなはまにかいがら一つなみにのまれた

いちき串木野市立串木野小学校四年 大迫 杏虹

串木野のカルタが語る市伝説切つてはいけないうつがんだんの木

いちき串木野市立串木野小学校五年 熊谷 聖愛

七夕のみんなの願いさきにのせ上へ上へと夜空広げる

いちき串木野市立照島小学校五年 小崎 凧

ぼくのまえいつたりきたりキラキラとれいめいはしまうみがきれいだ

いちき串木野市立羽島小学校一年 萩元 纏

はがぬけたしよつくだけれどなんでかなにつこりわらえばだいばくしよう

いちき串木野市立羽島小学校一年 元山 由紘

ぬるぬるのたこが一びきしおだまりはしまの海はゆたかな海だ

いちき串木野市立羽島小学校二年 尾崎 翔

まかされた十を背中にグラウンド黎明の風今ここに吹く

いちき串木野市立羽島小学校六年 武田 星莉

かつこいいゴジラのえかきたのしいないろんなかおでむてきなゴジラ

いちき串木野市立生福小学校一年 宇都 悠真

兄ちゃんと手つなぎあるく田んぼみち「かげがのびたよはやくかえろ。」

いちき串木野市立生福小学校二年 中川 泰我

かまをもちかたいいねを切つていくみんなでほしたらわらわらぶきやねだ

いちき串木野市立荒川小学校三年 上園 崇仁

あかいかおたいこをたたくおとうさんうちわでおうえんたなばたおどり

いちき串木野市立市来小学校一年 溜池 永翔

雨の中せつせと作るつばめのすうまく作れたつばめのふうふ

いちき串木野市立市来小学校三年 新開 花心

かごしまのことばがすこしわからないでもわかるんだやさしいきもち
帰り道香箱ずわりの地域猫この猫の名はザ「けんしろう」

いちき串木野市立川上小学校一年 藤井 志織
鹿児島市立西陵小学校六年 坂口 漣

ふと見れば人形岩の向こう側夕焼けそまる西方の海

薩摩川内市立平佐西小学校六年 堀之内 蒼空

思い出す夕日の景色海の音人形岩が笑って見えた

薩摩川内市立水引小学校五年 手打 華恋

梅雨の時期みんなが困った土砂くずれみんなのくらし取りもどしたい

十島村立中之島小学校五年 久木山 陽

ミニトマト風でしちゆうがたおれたよ雨ではじけたあまいほうせき

日置市立伊集院北小学校四年 入木 七愛

池の中おたまじゃくし集まってしつぽをふってダンスしている

日置市立伊集院北小学校五年 鶴田 眞悠

【入選】

登り坂歩くとともに落ちていく夕日をあびた金色のあせ

始良市立西始良小学校五年 原 悠莉

せみの声いつまでたってもなりやまずぼくのすいみんけずりとるやつ

始良市立西始良小学校六年 坂元 吟匠

羽島から英国めざした若者のゆめと希望を受けつぐぼくら

いちき串木野市立串木野小学校五年 西川 友稀

つゆのじき雨がにこにこ笑うときみんなこまっていたただ雨みてる

いちき串木野市立串木野小学校五年 萬福 百華

スコップと水で形を作り出す学校自まんのサンドクラフト

いちき串木野市立照島小学校四年 寺師 心結

父のかた幼き私を思い出すきのき祭でいっしょに踊った夜

いちき串木野市立旭小学校五年 榎田 美優

しつてる？そつくりなんだやまでみるしずむゆうひとサワーポメロが

もう夏だカプトやクワガタ出て来るぞぼくの虫かごもういっぱいだ
いちき串木野市立生福小学校二年 内田 妃咲

荒川の山の中にと光るもの川にきらきらホタルが動く
いちき串木野市立生福小学校四年 屋久 満月

かわかみの田んぼでみんなどろだらけいっしょにうえてたのしかつたよ
いちき串木野市立荒川小学校六年 加藤 桜子

パソコンでタッチタイプをはじめたよもじもうてるしすぐくたのしい
いちき串木野市立川上小学校一年 福田 奈那実

すぐろくで鹿児島一周してみたらふるさとの中にお宝発見
いちき串木野市立川上小学校三年 内田 光星

いとことねきようりゆう公園遊んだ後帰りに食べたフェリーのうどん
鹿児島市立伊敷小学校六年 稲葉 厚人

ふるさとに帰ると感じるお茶の香かを今は帰れず心に思う
鹿児島市立西陵小学校六年 辻 優樹菜

玉苗を植えるリズムに合わせ舞うメダカとカエルのお遊戯会
鹿児島市立春山小学校五年 寺前 陽翔

おじいちゃんいつたいなにをいつてるのそんなわたしもかごつまべん
鹿児島市立春山小学校五年 堂込 ゆい

葉がしげり光がまだら山の中木もあせながし虫もたたかう
鹿児島市立春山小学校五年 二俣 天星

四年前初めて歩いた通学路変わる町なみ残る茶畑
鹿児島市立春山小学校五年 山神 友李丸

びわの実を育てはぐくむさざ波と灰を吹き出す桜島かな
鹿児島市立平川小学校六年 吉井 貫汰

ゴクゴクと祖父の一飲み豪快に焼酎ほうばる猿の面構え
鹿屋市立西俣小学校六年 大村 陸人

湯けむりの立ち昇る地に移り住むすてきなここは新たな故郷

七五三ピンクのきものあかいおびじんじやのかみさまわらってみてる

夏の浜はだしでかけっこはねまわる笑いで熱さもはじけ飛んでく

潮風の吹きぬく沖でトビウオが釣船の後追うを見つけた

むし暑い夜空に広がる一りんの飛び散る花に心取られる

川内のおおつな引きはけんかづな男性たちのいくさでもある

たのしみはみんなで泳ぐメルヘンで冷たい水がすきとおる時

寒い朝月屋山にはかねひびくそこにはきれいなあらしが流れる

放課後にそよ風ふけばささの葉がさらりとなってほほえみこぼす

夏になりきれいな海を見ていると何色もの青かがやいている

帰り道細くて長いお茶畑橋だったならわたってみたい

ふるさとで海に行くため電話していとこをよぶも今年はなしだ

【佳作】

おおくすの木の葉の匂い洋服についてはなれずなつかしの香り

霧島市立高千穂小学校六年 佐藤 真衣

薩摩川内市立里小学校一年 飯伏 萌華

薩摩川内市立里小学校四年 小川 千咲

薩摩川内市立里小学校六年 西菌 怜

薩摩川内市立川内小学校六年 牛島 結花

薩摩川内市立平佐西小学校六年 有村 心美

薩摩川内市立平佐西小学校六年 桑木野 愛莉

薩摩川内市立水引小学校五年 花田 都稀

薩摩川内市立水引小学校六年 貞形 逢樺

西之表市立古田小学校六年 小野寺 晴希

南九州市立松山小学校六年 衛藤 星珂

屋久島町立神山小学校六年 青山 宗史

始良市立蒲生小学校六年 厚地 希空

目にうつる汗びつしよりの父の顔蒲生で育つ努力の野菜

大楠は両手を高くせのびして蒲生のみんなを見守っている

春の日の夕ぐれ時に鳴るチャイム桜の木の下心も花咲く

ふるさとや河原の小かげが写しだすおさなきときのほおの夏風

夏が来て梅雨の悲しみ消えて行きみんな喜ぶ八月の朝

学校で外ふと見れば森があるその森みんなで探検したいな

かまどたく米のにおいをかぎわけて祖父母の米をかみしめる時

桜島ふんかするたび窓ゆれて外をのぞけば変な形だ

夏休みみどこい祭りの思い出は三個だいで元気にパレード

船で行きしかとたわむれ砂あそびキャンプもできる阿久根大島

わがまちにつたわるはなしななふしぎいつかいきたいかんぜんせい

まどをあけ風にはこばれやってくる海のおいはふるさとのかおり

指宿の砂蒸し温泉入るけどマスクはずすの忘れた私

コロナかでふるさと祭り無くなって串木野の良さあらためて知る

始良市立蒲生小学校六年 岩元 諒人

始良市立蒲生小学校六年 浜地 月

始良市立西始良小学校五年 大迫 侑煌

始良市立西始良小学校六年 上村 勇海

始良市立西始良小学校六年 鈴江 理央

始良市立西始良小学校六年 瀬戸山 駿生

始良市立西始良小学校六年 園田 愛結

始良市立西始良小学校六年 畠中 優

阿久根市立阿久根小学校六年 倉田 将希

阿久根市立阿久根小学校六年 小林 蘭

阿久根市立阿久根小学校六年 濱崎 紗奈

いちき串木野市立串木野小学校五年 大園 朱音

いちき串木野市立串木野小学校五年 国料 咲希

いちき串木野市立串木野小学校五年 橋口 心華

れいめいのほんとの勇氣ありがとう今とつながるぼくがいること

すなはまでしおかせあたりはしるぼくきもちほうまだけいばまだかな

トンネルをぬけたらみえるよおさるじまなつになつたらあいにいききたいな

りゅう学生つらかつたよねあの時代れきしにのこる十九人

夢に向け努力いっぱい羽島の子いつかは夢を叶えてみせる

ポイ捨てで魚がいなくなつちやうよ残そう未来へきれいな海を

イギリスへ羽島の地から旅立つた偉大な人たちぼくのあこがれ

ミニトマトお日さまあびて赤くなる。まるで小さなたいようみたい。

がんばるぞもつとじょうずになりたいたいつか打ちたい強いアタック

荒川のたいこの練習あせ流しドンドンドン本番いどむ

雨がふりかえるの音が田んぼよりケロケロと鳴き雨を楽しむ

てっぼうでつくいもんたち動きだす七夕おどりにひびくかけ声

広い池桜まんかい春の日ににこにこ笑うかんのんが池

桜島見下ろす市内町明かり夜の海から花火が上がる

いちき串木野市立照島小学校四年 志村 倅之心

いちき串木野市立照島小学校四年 福田 愛琉

いちき串木野市立羽島小学校一年 藤崎 敢大

いちき串木野市立羽島小学校四年 橋野 心音

いちき串木野市立羽島小学校五年 池田 新汰

いちき串木野市立羽島小学校五年 齋藤 凜空

いちき串木野市立羽島小学校六年 藤崎 善士

いちき串木野市立生福小学校二年 西中間 千郷

いちき串木野市立生福小学校四年 中島 夏葵

いちき串木野市立荒川小学校四年 山下 愛心

いちき串木野市立市来小学校三年 佐藤 祐舞

いちき串木野市立市来小学校五年 奥ノ園 彩世

いちき串木野市立市来小学校五年 久松 亮太

鹿児島市立伊敷小学校六年 飯山 幸之助

わからないなんどもきいてもやっぱりねなまりがつよいかごしまべんは

桜島明日は雨だと母が言うなぜなら頭にぼうしをかぶる

波の音海辺で遊ぶ子どもたち声が聞こえる行ったり来たり

春になりたくさんの花さいていた私の心ぼかぼかしてる

もみじの葉ゆうひでそまるこいあかにはずかしそうにわらってるのかな

学校の飼育小屋には元気いいガークとガースケいつも鳴いている

ふるさとのぼくの家の、近くには、しんれいスポット、犬鳴き村あり。

春到来緑の葉つば色深し明日はいよいよお葉つみ時間

春山の緑いつぱいの鳥の声朝日さんさんまぶしい景色

ゆうがたや赤くそまりて夏の空雲も赤いそまっっていく夏

種子島ばあちゃん家に帰ったらねこの鳴き声聞こえてくるよ

がさごとと電車の音と森の音テレビのじゃまはやめて下さい

満面の笑みでピワの実食べることそうぞうをして手入れがんばる

カキーンとサヨナラヒット甲子園サイダー飲みつつ歓声あがる

鹿児島市立伊敷小学校六年 中友 景

鹿児島市立伊敷小学校六年 米盛 瑛仁

鹿児島市立西陵小学校四年 酒元 萌菜

鹿児島市立西陵小学校四年 竹山 香望

鹿児島市立西陵小学校四年 中村 真緒

鹿児島市立西陵小学校六年 小野 朔汰

鹿児島市立西陵小学校六年 豊川 季也

鹿児島市立春山小学校五年 内 琉伍

鹿児島市立春山小学校五年 田原春 公志

鹿児島市立春山小学校五年 田畑 りの

鹿児島市立春山小学校五年 萩原 榛子

鹿児島市立平川小学校六年 飛永 真司郎

鹿児島市立平川小学校六年 西田 樹

鹿屋市立西俣小学校六年 池田 悠大

連山がぼくに語るは古の神話がじまんきりしま市

おはやしと舞手の気持ち重なって美しい舞霧島神楽

たのしみは川内港からフェリー乗り海のパシャパシャトビウオ飛ぶ時

たのしみは夜の風景海辺から静かな波を見ているときだ

たのしみは空あかきときおきい出て朝日の下で散歩する時

たのしみはふるさとかおるあんしん感きれいな空気吸っているとき

たのしみは夏の夜空に「たまやあ」と大りんの花まい上がる時

九はこのみかんあちこちおすそわけあまいのぜんぶぼくがいただけ

昼の街カンカンと鳴るかねの音と歌にはやしにおどり始める

たのしみは全てかわいい弟の今日の成長そばで見る時

たのしみは夜に家族で机を囲み今日の出来事話し合う時

たのしみは週三回の空手の日組手の練習しよう級する時

赤か白勝利をつかむのどちらの手チームの力今見せつける

たのしみは文月の朝起きいでて朝日を前に背伸びする時

霧島市立高千穂小学校六年 木原 僚祐

霧島市立高千穂小学校六年 樫山 凜桜

薩摩川内市立隈之城小学校六年 市來 幸太

薩摩川内市立隈之城小学校六年 小野原 拓実

薩摩川内市立隈之城小学校六年 塩森 萌愛

薩摩川内市立隈之城小学校六年 藤井 由羅

薩摩川内市立隈之城小学校六年 宮内 歩華

薩摩川内市立里小学校三年 庵地 琴晴

薩摩川内市立川内小学校六年 児玉 希乃花

薩摩川内市立平佐西小学校六年 伊地知 來愛

薩摩川内市立平佐西小学校六年 門久 和奏

薩摩川内市立平佐西小学校六年 川畑 来歩

薩摩川内市立平佐西小学校六年 下園 琉喜

薩摩川内市立平佐西小学校六年 諏訪 ほのか

たのしみは仲間とかなでる音や色リズムにあわせて曲にする時
ふるさとは温泉たくさんならんで湯気が空までのぼっていくよ
雨がふりあじさいさいいてかえる鳴く大雨ふっただいなしだよね
梅雨の日に雨風うたれポットンと落ちてころがる大つぶの梅
れいぞうこあけつばなしでソーダのむ後ろで母の少しこわい声
テストの目心そわそわ落ちつかないお茶のかがりが勇気をくれる

薩摩川内市立平佐西小学校六年 吉岡 美優

薩摩川内市立水引小学校五年 門芳 陽菜

西之表市立古田小学校五年 黒崎 優香

日置市立伊集院北小学校四年 久木原 里空

日置市立伊集院北小学校五年 稲留 直紀

南九州市立松山小学校六年 菊永 莉心

中学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

コロナ禍で一つの思い出消えちゃったこの青春はもう戻らない

いちき串木野市立串木野中学校三年 森田 遥香

【市長賞】

海の音と背中の夕日にはげまされゆつくりペダル踏みこむ私

阿久根市立三笠中学校二年 出口 舞衣

【県歌人協会賞】

夕立ちに木陰で鳴いたひぐらしが静かな空にせつなく鳴いた

いちき串木野市立串木野中学校一年 江口 優輝

【選者賞】

南風私の願いつめこんでどこかとおくへ行ってしまった

湧水町立栗野中学校二年 仲谷 一乃

【教育長賞】

秋の風武将の旗がはためきて友と語らい詣るその道

日置市立伊集院北中学校三年 尾原 直太朗

【南日本新聞社賞】

地が動く鬼人が走る鬼追いの走る鬼から紙をとる人

曾於市立末吉中学校三年 有川 未徠

【特選】

汗たらし腰をまるめて植えた苗風に吹かれてゆれる大麦

ふるさとのサワーポメロが雨に濡れ雫が黄色く輝いている

ころもがえ着れなくなっておさがりにいい思い出がつまっているよ

浜けいば海岸駆ける馬たちのぼくも感じる負けない心

串木野の夢ある者を乗せて行く古き思い出就職列車

赤んぼう抱いて喜ぶ母の顔痛みに耐えてまねいた幸せ

持ちかえり本の続きに読みふけるふとんの中で過ぎゆく時間

青空をかき分け進むおはやしを乗せた朱の山車^{だし}緑へ消える

砂浜を走りすぎてく浜けい馬青色の風かきわけ進む

池田湖のそよ風そよぐ水の音が季節の交わり目伝えてくれる

朝日浴び参道埋めるアコウの葉我を迎える埋没鳥居

山の上高くそびえる鉄塔は山の向こうの何を見ている

海はねる飛魚の羽鳥のごとし輝く羽はにじいろの羽

出水市立大川内中学校二年 山崎 太聖

いちき串木野市立串木野中学校一年 田島 すぐ

いちき串木野市立串木野中学校二年 水流 樹里亜

いちき串木野市立串木野西中学校一年 網屋 恒心

いちき串木野市立串木野西中学校三年 濱口 蒼大

いちき串木野市立串木野西中学校三年 早川 浩成

いちき串木野市立羽島中学校一年 藤崎 流聖

いちき串木野市立市来中学校一年 石堂 未遥

いちき串木野市立市来中学校三年 久木元 敦洋

指宿市立西指宿中学校二年 池上 鉄馬

鹿児島市立黒神中学校一年 田中 璃杏

鹿児島市立皇徳寺中学校二年 川畑 優

鹿児島市立坂元中学校一年 木之下 博飛

波の音不満といつしよに流しては希望をくれたふるさとの海

寺山のふかき緑よ今もなお目には見えない歴史のとびら

桜島みていてくれた教室を私は今日で卒業します

雲陰にかすかなうさぎのぞきたり水面を照らす餅つく姿

満天の星を見上げて心浮く私も空の一部になった

爆音と三尺玉が夏の夜みんなの瞳と港にうつる

チャリに乗り真夏の暑さに降参し押さざる得ない真夏の坂道

【入選】

木々の奥紺色の道コケ生えてすうつと立つは茶色の鳥居

帰り道朝とは違う風景が田植えのことを教えてくれる

キラキラとかがやく海に照らされて名馬出走浜競馬にて

田舎道道端にあるその"もの"は平和の証無人販売

思い出の祭りの音が消えてゆく早くおさまれコロナウィルス

友達とスケボー持って新港で上手な人の技見てまねる

鹿児島市立武岡中学校二年 辻田 真大

鹿児島市立吉田南中学校二年 菊永 拓海

霧島市立陵南中学校二年 清水 風花

薩摩川内市立川内南中学校二年 川口 綺來里

日置市立伊集院北中学校三年 北山 千裕

枕崎市立桜山中学校二年 末野 広大

湧水町立栗野中学校三年 森山 来晏

出水市立大川内中学校二年 原 陽奈

出水市立大川内中学校二年 牧 優希

いちき串木野市立串木野中学校二年 木村 友也

いちき串木野市立串木野中学校二年 下村 天寧

いちき串木野市立串木野中学校三年 羽山 汰一

いちき串木野市立串木野西中学校三年 柿山 柗太

部活動黒く染まった空の色雨音強くコートに響く

絵のように四季あざやかな山々を緑が知らず夏のおとずれ

にぎわいの祇園祭の夏の夜静かな空に浮かぶ火の花

エイサーのリズムをふいに思い出す重なる鼓動今も忘れず

バスクラのみんなを支える低い音チューバの中に入りこんでく

知林ヶ島潮の中から現れたひとすじの道渡ってみよう

水面に写る自分の姿見てあわてて飛んでく赤とんぼかな

ドツカンと大きな音が鳴り響く風向確認清掃準備

ゆうゆうと波間にひよっこりいるかの群心おどるよ豊かな故郷

同じだなそう思うけどちがうんだ一つ一つにおいしきがある

岸良のセミ休む間もなく鳴り響く負けじと僕も水切りをする

梅雨明けの最後の雨がふきあれて岸良浜見よ波猛くるう

休日の午後ただ一人汗流す父の姿を映す早苗田

雨の中傘をさしだす君の手は今でも残る思い出だった

いちき串木野市立羽島中学校一年 山崎 健心

いちき串木野市立生冠中学校一年 伊集院 清楽

いちき串木野市立市来中学校三年 岸上 優理奈

神村学園中等部二年 前田 悠

神村学園中等部二年 柳田 美妃

指宿市立西指宿中学校二年 横村 海影

鹿児島市立坂元中学校一年 福寄 貫太

鹿児島市立桜島中学校二年 玉置 七海

鹿児島市立桜島中学校二年 濱川 愛奈

鹿屋市立細山田中学校二年 村山 佳奈美

肝付町立岸良学園七年 川邊 瑛大

肝付町立岸良学園九年 安田 空正

霧島市立霧島中学校二年 豊島 杏奈

霧島市立陵南中学校二年 石丸 桜久埜

茶の香り運ぶ風に逆らって機体が空へまっすぐに飛ぶ

ミンミンと五月蠅く響く家の外夏も終われば鳴かぬしかばね

青空に高く伸びたつ柚の木よ鳥の音色にささやきながら

方言は秘密の暗号鹿見島に古く伝わる人々の心

夕風の浜辺に打ち寄す潮の波儚く過ぎるたそがれ時かな

アスファルト全力疾走落ちる汗天気予報は今日も真夏日

放課後にハードルが並ぶ第六レーン汗水流す初夏の部活動

炎天に焼かれた道路のアスファルト雨に冷やされ机に香る

吹きぬける歴史の風を包み込み先代達の思い受け継ぐ

塾終わり暗闇一人帰り道蛍がともす私の心

【佳作】

どこまでも吹きぬける風穂をゆらしわたしを運ぶ世界のはしまで

晴天でしずくがひかるあじさいがダイヤのように輝いている

羽島の地想いをはせる海洋にヨーロッパへと渡った志士に

霧島市立陵南中学校二年 松原 杏佳

薩摩川内市立川内南中学校二年 大原 茉莉果

曾於市立末吉中学校三年 花岡 さくら

曾於市立末吉中学校三年 持永 彩那

中種子町立中種子中学校二年 柳田 優香

日置市立伊集院北中学校二年 新村 航平

湧水町立栗野中学校二年 伊藤 陽人

湧水町立栗野中学校三年 大久保 郷平

湧水町立栗野中学校三年 廣瀬 由依

湧水町立栗野中学校三年 宮園 真唯子

阿久根市立三笠中学校二年 寺園 陽菜

いちき串木野市立串木野中学校一年 北菌 佑真

いちき串木野市立串木野中学校一年 宮内 優和

トンネルをぬけてながめる水平線真つ赤な夕日に心あらわる

初めての雪見る幼い少年を過去の自分と照らし合わせて

マスクごし鼻腔を差せば海の香がさのき踊りを思い出させる

串木野の夜空にかがやくホタルたち平面にうつるまんまるい月

うらかな小川の流に身をまかせ流る笹舟追いし少女ら

近代の夜明け目指して大航海僕の発表想い伝える

この海が奏でる音は唯一無二授業が奏でる音と合わさる

なつかしき友と見たあの夕日には思い出つまる照島の日々

届き物温もり感じる祖父母から袋の中を彩る野菜

たくましい薩摩藩士よ英国へ命を懸けて未来を創る

十九名命を懸けて飛び立った創った歴史を未来へ繋ぐ

ぷりっぷりご飯の上でおどりだすまぐろの祭り共におどるよ

ふるさとの海原うつる校舎窓ともしよっぱい塩水の味

自まん気におよぐや魚ちりめんじゃこ海が宝石いちき串木野

いちき串木野市立串木野中学校一年 柳田 空夢

いちき串木野市立串木野中学校二年 山本 隼也

いちき串木野市立串木野中学校三年 片山 華孔

いちき串木野市立串木野西中学校二年 満留 悠杏

いちき串木野市立串木野西中学校三年 川畑 純愛

いちき串木野市立羽島中学校三年 鮫島 虎太郎

いちき串木野市立羽島中学校三年 下永田 頼翔

いちき串木野市立生冠中学校一年 有馬 輝奈

いちき串木野市立生冠中学校一年 松田 采華

いちき串木野市立生冠中学校三年 古市 聖剛

いちき串木野市立生冠中学校三年 山上 聖音

いちき串木野市立市来中学校一年 池山 月菜

いちき串木野市立市来中学校一年 永田 侑

いちき串木野市立市来中学校一年 久松 香織

帰り道あたり広がる愛の稲踊る自分は水面にうつる

ぎおん祭静かにきたる潮風に皆の浴衣を潮風が吹く

夏の日の夕暮れどきにチャイムなりみなはやあしで家にかけてく

砂浜で耳をすませば波の音それに負けじと馬が飛び出す

青空にぎおん祭のにぎわいが届いていくよう消えていった

風に乗り鼻腔に香る磯の匂いそれはどこか悲しい匂い

吹上の青より吹きし潮風を陽を受け香るサワーポメロ

夏の時期青空の下男達地を掛け回る七夕踊り

元気よく生えて屋久杉もう千年大樹のようにぼくも育ちたい

英国へ決意で進んだ薩摩藩黎明の地に吹き越す海風

金色に色づく稲穂風にゆれ馴染みの香り背に吹き付ける

くもり空重い風がふいてくる心の中も梅雨がはじまる

田植えの日働く父に光るのは努力の証大粒の汗

日曜日家族みんなで稲刈りにかえる追いかけ走った田んぼ

いちき串木野市立市来中学校一年 水口 遥月

いちき串木野市立市来中学校二年 大迫 夢仁

いちき串木野市立市来中学校二年 中村 優花

いちき串木野市立市来中学校二年 松園 恭太朗

いちき串木野市立市来中学校三年 上ノ園 裕美

いちき串木野市立市来中学校三年 西中間 康汰

いちき串木野市立市来中学校三年 淵上 元貴

いちき串木野市立市来中学校三年 水口 英祐

神村学園中等部一年 鈴木 和也

神村学園中等部一年 鶴本 七望

神村学園中等部一年 藤島 優季

神村学園中等部二年 清水 悠夏

神村学園中等部二年 末廣 龍人

神村学園中等部二年 寺園 杏

グラウンド頂点目指す若人のしばの上には汗、声響く
 太陽に照らされる海ピカピカと鏡のように光をはなつ
 桜島火山の灰が風に乗り町全体がおおわれていく
 でかではじめて書けた君の字はいつも見返す私の宝
 駆け抜ける足を松葉に刺激され痛みに泣いた隼人松原
 指宿の砂浜見れば美しく光輝き金のオリビン
 火山灰黒く汚れる窓ガラス家事増えあせる母の足どり
 部活動終わった帰りぼんやりとブルーベリーに包まれそうだ
 想い出は雲のように変わりつつ家族みんなの幸せ証し
 風が吹く目にしみるのは火山灰「また降ったな」と母のため息
 ふるさとのみようえんじまいりここにありやまみちあるいてひきびきのあせ
 なつかしき母と歩いた野の小道変わらないのは桜島だけ
 たまに泣く雄大な山と静かな海大事な大事な私の宝
 かぎなれた硫黄の香り風に乗り空に輝く灰色の粒

神村学園中等部二年 中野 陽斗

神村学園中等部二年 春園 虹天

神村学園中等部二年 福島 和毅

神村学園中等部二年 本間 奈月

指宿市立西指宿中学校二年 酒匂 真斗

指宿市立西指宿中学校二年 鶴田 結人

鹿児島市立皇徳寺中学校二年 秋葉 真央

鹿児島市立皇徳寺中学校二年 茅野 薫音

鹿児島市立皇徳寺中学校二年 野津 隼里

鹿児島市立皇徳寺中学校二年 前川 瑚遥

鹿児島市立坂元中学校二年 坪山 雄哉

鹿児島市立坂元中学校二年 米重 美和

鹿児島市立桜島中学校二年 重久 このみ

鹿児島市立武岡中学校二年 西 天掣

なつかしのこのにおい音もう一度あの人に会い歩きだそうか

あおい海に緑の森画像だけじゃ伝わらない私のふるさと

いたたたたお茶を取るため腰曲げる人の苦勞が美味しくするよ

続いてるお茶の文化も茶畑も一口飲んでふるさと鹿屋

青空に微かに見える高隈とそれよりでかく見える茶畑

父母と夜の田んぼの畦ゆけば星空の下あまたの螢

祖母の家近くの川で釣りあげた大きな魚従兄弟と僕と

梅雨の中家族と一緒に田植えする今年はどんな米になるかな

快心のゴールが決まり息あがり私を抜いて涼風かける

面一本仲間につなぐ勝敗を最後の思い後悔なしに

六月灯はしゃぐ彼女のサイフ僕「全部買って」と指差す露店

風鈴が夏の風に揺られては夏の色へときれいに染まる

一人では祖母らの方言分からない笑顔で分かる分からなくとも

いつからかここに宿りし魂は姿を変えて我が身を造る

鹿児島市立武岡中学校二年 廻 愛美

鹿児島市立吉田南中学校二年 福吉 彩音

鹿屋市立細山田中学校二年 宇住庵 拓己

鹿屋市立細山田中学校二年 鮫島 結

鹿屋市立細山田中学校二年 米満 十雲

霧島市立霧島中学校二年 関之尾 董七

霧島市立霧島中学校二年 野崎 優空

霧島市立霧島中学校二年 渡辺 海咲

霧島市立陵南中学校二年 酒瀬川 篤志

霧島市立陵南中学校二年 二見 かなり

霧島市立陵南中学校三年 松元 莉乃

薩摩川内市立川内南中学校二年 大平 明育

曾於市立末吉中学校三年 楠見 和希

日置市立伊集院北中学校一年 関野 桃子

人々のきずなをつなぐ妙円寺詣り話して歩いて友情深まる

残された島づの思い駅にあり緑が囲う我が日置市

夏の海やけた友達棒を持ちはじけるスイカはじける笑顔

ふるさとのちようちん持つて墓参り兄の背を見てかけよるいとこ

きばらん海花火に負けないおどり連努力の汗がかがやいている

今コロナ帰りたいのに帰れない祖父母の声が寂しくひびく

どうしよう何もうかばない短歌、俳句締め切りはもうそこまできてる

朝顔に雨のしずくがねらい落ち色にしみこみ光りがやく

夏祭り金魚すくいねらいさだめとおりぬけていく金魚たち

夏の夜四つの動く明るさは火花が散ってる手持ち花火

秋初め夏がすぎると恋しくてもどりたかったあの日の夏へ

夏休みねては起きてのくり返し宿題まだおこられる日々

夏休み受験勉強で大変だきつい毎日続こうとしている

日置市立伊集院北中学校一年 松崎 幹太朗

日置市立伊集院北中学校一年 吉丸 華菜

日置市立伊集院北中学校三年 東福 淳平

日置市立伊集院北中学校三年 松山 蒼季

枕崎市立桜山中学校二年 内 結奈

湧水町立栗野中学校二年 田島 佳倫

湧水町立栗野中学校三年 植村 心美

湧水町立栗野中学校三年 前田 翼早

湧水町立栗野中学校三年 松田 風音

湧水町立栗野中学校三年 真弓 優輝

湧水町立栗野中学校三年 向高 鈴

湧水町立栗野中学校三年 湯口 叙堯

湧水町立栗野中学校三年 脇田 紗彩

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

黎明祭英語やなまった日本語で偉人になりきる羽島の子ども

県立川内商工高等学校一年 福菌 蓮児

【市長賞】

帰れぬ日寮に届きしダンボール箱いっぱい島の香りや

県立市来農芸高等学校三年 山元 陽人

【県歌人協会賞】

垢抜けた兄とのZoomに違和感が変わらぬ声に緊張ほぐれる

県立串木野高等学校二年 徳永 蓮

【選者賞】

遅くまで部活をしていた帰り道「また明日ね」と街灯がつく

県立川内商工高等学校一年 山路 千晴

【教育長賞】

涙ぐみ渡す花束抱えつつ去りゆく師の背小さくなれり

県立市来農芸高等学校二年 四元 瑞妃

【南日本新聞社賞】

なんとなく手に取る本に一目惚れ気づけば僕は本に恋した

県立串木野高等学校二年 大井 琥珀

【特選】

リズム乗りステップ軽く踏み出せば通り賑わう馬踊りかな

高らかに闇夜に鉦の音の響きふるさとに秋運んで来たり

炎天に横一列の農高生足跡残して青田の広がる

帰宅日の部活電車と長すぎて話したいことカバンに溢る

この街に生まれ育った思い出をカバンにつめて一歩踏み出す

祇園山市来賑わす祭り子のお囃子高く空に渡れり

検定やボランティアやら受検やらいそがしすぎる高3の夏

セミを追い風を集める虫とり網祖父亡き家で我を待ちたり

日盛りに汗を流しし農実習ビニールハウスぞ我らの学び舎

ふるさとの変わる町なみだんだんと思ひ出の場所ぬり変えられる

飼い猫がごろんと寝転ぶアスファルト冠嶽がそれを見守る

真夜中の月の光を浴びながら母の寝言にただ耳をかす

灰色の空に描かれるV字型北の国へと旅立つ鶴

県立市来農芸高等学校一年 宇都 翔

県立市来農芸高等学校一年 宇都 凜太郎

県立市来農芸高等学校一年 川元 瑛詞

県立市来農芸高等学校一年 立山 花

県立市来農芸高等学校一年 服部 鳳馬

県立市来農芸高等学校一年 三浦 楓太

県立市来農芸高等学校三年 勝 美早紀

県立市来農芸高等学校三年 笹平 大雅

県立市来農芸高等学校三年 染川 拓海

県立串木野高等学校一年 山上 空菜

県立串木野高等学校二年 佐藤 孝則

県立串木野高等学校二年 東 隼也

神村学園高等部一年 大迫 美丸

夏の日に響く潮騒友の声フアインダー越しに映る輝き

旅立ちに時と思ひ出胸に止めまだ見ぬ未来に耳を澄ませる

ふるさとで十年ぶりのおつかいへ今日も八百屋は特売セール

ふるさとの生い茂る木々川の音ペダルこぐ脚かすかに緩む

大ゲンカそえられたメモごめんねとからっぽ弁当母へのお返し

無人駅君と眺める夕焼けが作る影は二人をつないだ

卒業式最後に残るさびしさは写真をとつても残せはしない

【入選】

朝涼に祖母と二人の畑^{あさすず}仕事採れたて野菜のな^{はた}お甘きかな

日盛りの祇園祭りの賑わいに御輿担ぎで伝統つなぐ

野球する我のためにと祖父母から米や野菜の定期便なり

初めての畜産の授業思ひ出し牛に怯えて逃げ回る日々

未熟児のはかない命手のひらへ持ち上げた瞬間日々の感謝

金曜日待ちにまつた帰省の日ドアをあければ愛猫の顔

鹿児島情報高等学校一年 宮本 海風

県立錦江湾高等学校三年 堂園 栞生

県立錦江湾高等学校三年 永野 蓮菜

県立川内商工高等学校一年 家吉 正純

県立川内商工高等学校一年 小濱 麗奈

県立川内商工高等学校一年 上村 凌駕

県立川内商工高等学校一年 吉田 壮汰

県立市来農芸高等学校一年 石澤 緑

県立市来農芸高等学校一年 岡山 悠雅

県立市来農芸高等学校一年 下池 翔真

県立市来農芸高等学校二年 榎田 真也

県立市来農芸高等学校二年 水口 茉莉花

県立市来農芸高等学校二年 溝口 星矢

数重ね思い芽生える田畑継ぎ亡き祖父に変わり黄金実らす

田植機の音響かせし父のあと稲を継ぎ足す我尻拭い

歓声を浴びてはためく大漁旗握る祖父の背まぶたに残る

ひいばあちゃんぼくらの好きなせんべいを今でも空でくばってるかな

沈みゆく夕日と共に歩く僕変わる景色は空の色だけ

風が吹くふとよみがえるなつかしき潮のかおりや島の生活

響き渡るシャトルの音とセミの声時が過ぎゆく高三の夏

会うたびに広がっていく身長差祖母と私の距離は縮まる

蒸し暑い空間の中目を閉じるいつもと同じ絵の具の匂い

せつぺとべかけ声かけて肩をくみどろんこで染まる真つ白なはっぴ

帰り道緑と愛があふれてる地域の人の笑顔のまほう

夏の日は毎年するよズボン焼け今年の夏はマスク焼けかな

家がいやそんなわたしを受けとめて一緒にみた星忘れることない

「大きくなったねえ」目を丸くするその人の糸をたぐれば母の膝下

県立市来農芸高等学校三年 早馬 光琉

県立市来農芸高等学校三年 南 快晴

県立市来農芸高等学校三年 邑山 ひなた

県立串木野高等学校二年 緒方 渉

県立串木野高等学校二年 小濱 麗蘭

県立串木野高等学校三年 有馬 蓮

県立串木野高等学校三年 猪之鼻 駿太

県立串木野高等学校三年 中野 聖鳴

県立串木野高等学校三年 春成 碧

神村学園高等部一年 ケーラーマリア

神村学園高等部二年 坂上 莉子

神村学園高等部二年 古川 和音

鹿児島情報高等学校一年 神田 あず

鹿児島情報高等学校一年 中馬 雄一郎

反抗期父へのいらいら止まらない唯一求める「パパ蜘蛛取って！」

市内からバス一時間私の家虫の鳴き声牛小屋のにおい

夏の朝昇る朝日と急ぐ足君の暑さが追いつく前に

冬銀河手紙そえたる小包のなつかしい味とふるさとの香

友と行く木々のトンネルてらやまに高く響いて木霊する声

燃えさかる汗流れ出る大綱引力に変わる周りの声援

木洩れ日が魚の背で舞い輝いた小川をはじく水切の音

壁のきずいまでは私の腰のたけ昔の記録とせいくらべする

専門の重い教科書入れた鞆小さく見える中学の校舎

デュースなり勝利が見えて気を抜いてエッジで負けた三年の夏

【佳作】

夏の日に遠くの祖母から込められた愛情の米笑顔広がる

ポランティアみんなで集める家庭ゴミふるさとは今あふれる笑顔

日盛りに祖父と二人の田植えかな頬ばる米に微笑み薫る

鹿児島情報高等学校二年 エンズ 史絵奈

鹿児島情報高等学校二年 摺木 彩加

鹿児島情報高等学校二年 林 由梨愛

鹿児島第一高等学校一年 中村 亮輔

鹿児島内商工高等学校一年 赤瀬川 梨奈

鹿児島内商工高等学校一年 今吉 蓮

鹿児島内商工高等学校一年 岩永 蒼真

鹿児島内商工高等学校一年 上野 潤希愛

鹿児島内商工高等学校一年 大良 優斗

鹿児島内商工高等学校一年 中島 幹太

鹿児島市来農芸高等学校一年 大中原 優

鹿児島市来農芸高等学校一年 久保 優人

鹿児島市来農芸高等学校一年 久保 涼雅

薰風や足を取られつ手植えせば牛の鳴き声田に広がれり

青田風吹く道歩けば米作る祖父母の顔のよみがえるかな

毎年の太郎タロ太郎タロ祭り父主役凜とす姿目に焼きつける

帰るたび食卓並ぶ煮魚は祖母の作れる定番メニュー

「今日行くね」告げて向かえば祖母よりも先に出迎え煮物の香りや

出会いの日尊い命ふるさに生まれし子牛春愁の場

太陽に照らされ育つ夏野菜吹き出す汗と収穫の紫

ひき肉が決め手と誇る祖母のシチュー大きく頬ばる我を笑へり

幼い日砂浜で見たシーグラス今はなつかしあの輝きか

勉強も日差しも私を追い込むが帰ればあの子がおかえりと笑う

帰宅中海の波の音おかえりといつも優しく自然の風りん

暑い夏大里川の草の影可愛いカモの親子づれあり

画面越し鼻息荒めな笑いじわ祖父母の笑顔おうちの時間

帰り道初めてつないだあなたの手止まって話して時を止めよう

県立市来農芸高等学校一年 馬場 統彬

県立市来農芸高等学校二年 有村 悠那

県立市来農芸高等学校二年 寺師 彩音

県立市来農芸高等学校二年 湯田 向日葵

県立市来農芸高等学校三年 礒道 幸与

県立市来農芸高等学校三年 永島 愛莉

県立市来農芸高等学校三年 橋口 翔生

県立市来農芸高等学校三年 馬場 胡羽

県立串木野高等学校一年 入江 心

県立串木野高等学校一年 土川 楓

県立串木野高等学校一年 野村 元暉

県立串木野高等学校一年 南竹 舞耶

県立串木野高等学校二年 有馬 凜

県立串木野高等学校二年 宇野 可鈴

今はもう訪れぬ町じいちゃんのふる里野菜なつかしき美味^{あじ}

もう二度と使うことはないだろうがらくたなつた大きな浮き輪

稲穂見て田植えをしたなと懐かしむタニシで叫んだ小五水無月

妹の苦しい病に向き合つて精一杯支えたい姉

マイグラス神器のごときクリアな視界わが古里の夕日美し

「おかえり」と我が子みたいに呼びかけるこれぞふるさと人のぬくもり

いつもの道私は左君は右私は語り手君は聞き役

窓辺にて睡余に浸る昼下がり頬を撫でゆく郷の潮風

セミの声うるさいほどに轟いてこれぞ私の目覚まし時計

フィールドは土を蹴る音まだ続く溢れる熱気汗も涙も

課題する我が身に染みる五時の風さわさわ揺れる黄金^{こがね}の田園

外出中地面が揺れる音がして洗濯物のドレスが完成

島人^{しまんぢゆ}の熱気あふれるなくさみで牛を引き寄せいざ勝負

水粒の束右に抱えたサイダーと左で仰いだ灰まじりの空

県立串木野高等学校二年 江口 ゆい

県立串木野高等学校二年 川元 あい子

県立串木野高等学校二年 小坏 香澄

県立串木野高等学校二年 清水 鈴莉

県立串木野高等学校二年 永山 嵐士

県立串木野高等学校二年 古田 琢人

県立串木野高等学校二年 南新 萌乃美

県立串木野高等学校三年 蛭原 隆太

県立串木野高等学校三年 樋之口 美麗

県立串木野高等学校三年 米丸 綾香

神村学園高等部一年 有菌 優蘭

神村学園高等部一年 野元 美心

神村学園高等部一年 東田 珠梨

鹿児島情報高等学校二年 金城 子乃

朝風や最南端の電停でまだかまだかと待ちわびる人

一生涯かけて羨む十七歳期限一年焦り地を蹴る

やすみ明け毎週祖母が言う決まり文句「きばいやんせ」一週間の始まりだ

夢を追ひ旅立つ我と里山を照らす月影いと清々し

夢を追ひ去りゆく私にふるさとは涙の代わりに贈る桜花

帰省する電車の中でソワソワと海に行くこと友と会うこと

あこのころのどろんこあそびの楽しさはもどつてこない無邪気な心

南風吹けば荒れ狂う海思い出す白波渦まく我が心かな

弟が思春期迎え少し冷め成長過程見守るばかり

山の斜面ソリの後ろに座る祖父守られながら涼風当たる

久しぶり実家にあつまる従兄弟たち言葉分らず孤独感じる

田舎だがゲオもコンビニもちゃんとある都会にも負けずオタク生活

白球を追いかけて続けた夏の日に終わりを告げるサイレンの音

うちの前畑のおじさん声かけるいないとなんか落ち着かない

鹿児島情報高等学校二年 西堂 里捺

鹿児島情報高等学校二年 濱田 真諒

鹿児島情報高等学校二年 古田 未来

鹿児島情報高等学校三年 中武 瑛希

鹿児島情報高等学校三年 山口 琳

鹿児島情報高等学校一年 赤寄 梢

鹿児島情報高等学校一年 荒木 信翔

鹿児島情報高等学校一年 石原 鳳陽

鹿児島情報高等学校一年 井龍 春人

鹿児島情報高等学校一年 大山 祐之輔

鹿児島情報高等学校一年 迫口 萌留菜

鹿児島情報高等学校一年 新原 煌雅

鹿児島情報高等学校一年 八尻 友里

鹿児島情報高等学校一年 三輪 あゆみ

ランドセルおんなじ色の赤とんぼ夕日に光る金色の羽

祖母がいう学校どうだいあたたく茶柱一つ幸せを呼ぶ

県立川内商工高等学校一年 村上 千恵

県立川内商工高等学校一年 森 小夏

一般の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

掛け衿をかけて法被を縫ひあげぬ夏の祭りの扉が開く

霧島市 玉川 マリ子

【市長賞】

巢立ちたる数多の声か蟬しぐれ閉校の碑の周りにしきり

熊毛郡屋久島町 大牟田 壮一郎

【県歌人協会賞】

負鶏に水を遣りゐる男ゐし闘鶏場のふるさとに消ゆ

鹿児島市 丸山 克介

【選者賞】

隣家よりシフォンケーキの届けられ老いたる夫婦の田植を励ます

霧島市 前原 ナリ子

【教育長賞】

掃き込まれし閉校間近の校庭に白木蓮の蕾ふくらむ

いちき串木野市 黒江 康子

【南日本新聞社賞】

終戦後郷の丘なる拡声器笠置シヅ子の歌高らかに

鹿児島市 森山 勲雄

【特選】

ふるさとの風と匂ひと夏野菜詰め込み送る遠くの子らへ

散策に紫尾の麓を訪ひぬ人家あるらし牛の鳴き声

寝釈迦なる羽島岬の夕光に芥が愛でし潮騒をきく

丈夫を乗せしますらをレールは錆尽きて往時の栄華ここに眠らん

消ゆるまで家族見送る鮪船ひととせ留守をいかに守らん

「ここだった」生家跡地に暫し立つ同窓会に帰り来し友

夜の空落ちゆく気持ち三日月の欠片埋めるは満天の星

西郷どんがかつて歩いたこの道を背広が追い越すビル立ち並ぶ

幾人の旅立ち見しかふるさとの三叉路に立つバス停留所

何時の日かまた帰りたしふるさとはコロナ禍やまず日々遠ざかる

おごそかに冠岳は水鏡に写りて一輪蓮の花抱く

父祖の血の滾る故郷に戻り来て土塊ひとつこぼすたぎ
てらひら

電飾の軽トラ並びて肅々と一族集ふふるさとの盆

いちき串木野市 後潟 富美子

いちき串木野市 奥吉 志代子

いちき串木野市 小原 俊幸

いちき串木野市 新町 正

いちき串木野市 平石 勝嗣

いちき串木野市 萬福 平次

神村学園専修学校理学療法学科一年 朝飛 李恩

神村学園専修学校こども学科一年 渡辺 彩華

鹿児島市 今村 圭子

鹿児島市 川端 清一郎

鹿児島市 徳田 和子

霧島市 秋野 三歩

霧島市 稲満 洋子

豊饒ほうじょうの海に育ちて教壇を見つむる子等よ春風に立て

風のごと現れ風のごと戻る吾子の背せびらに夏の虹立つ

八月は国の喪の月その中に夫にも吾にも誕生日あり

三十一人登校終るを見届けて過疎の地に降る五月雨優し

実生なるビワも大木となりてこの里に嫁しし歲月はるか

洋上に島影三つ繋がれて甑大橋の落日眩し

過疎の地の小さき小さき夏祭り村は総出で社を護る

やはらかに肌にふれ合ふ春の雨踏む足音も濡れてつきくる

早春シマの古里より届く特産の馬鈴薯ほのかに赤土纏ふ

【入選】

弓なりに薩摩半島の群青を羽島より望む水無月の朝

浴衣とき桔梗の柄のワンピースははス亡母の手作り着ていた戦後

縛られし田の神様のある小道ゆえ故は知らねど手を合わせ行く

手ぬぐいを腰にぶら下げあせ道をガニ股歩きの酒好きの父

霧島市 白坂 功子

霧島市 山口 サキ

霧島市 四元 幸子

薩摩川内市 市来 菁子

薩摩川内市 平田 立子

日置市 坂口 勝美

南九州市 内門 リツ子

南九州市 横峯 ヨキ

熊本県八代市 船間 和子

いちき串木野市 壺泊 昭子

いちき串木野市 上中 イクコ

いちき串木野市 久保 佳子

いちき串木野市 小瀬 めぐみ

ひぐらしとアカシヨウビンの鳴声が朝露揺らす霧の冠嶽

あしあとをごせんぞさまもきざんでたぬかるむたんぼなぜかあたたか

郷の味いまだ遠しとひそめ居た汝が煮しめこそ子等は憶えり

舟持ちの唄が響くよ羽島崎一番舟に孫が喜ぶ

照島の浜風うけて一直線駆ける人馬に拍手は止まず

昼の海カルピス買ったそがれるハンディーファンの充電切れて

阿久根駅着いた途端に心地良い見慣れた街に海の香りに

湯浴みせし子らが涼風奮ひ合ふ姿浮ばす古扇風機

補助の手を兄が離れたあの一瞬自転車漕げた遠き思ひ出

スマホから流れる母の訛り聴き訪ねがたきをGOOGLEで見ると

山の上に浮かんだ卵形の雲ばかんと割れて夏は来るらし

「おやつときあ」心を解く一言に吾も薩摩人の端くれとなる

僅かなる光で生きる草ならむ土間の毒だみ里の朽ち屋に

ゆふかぜとなりゆく小さき鳥たちの残してゆけり赤き木の実を

いちき串木野市 中島 朋子

いちき串木野市 西村 健一

いちき串木野市 火野坂 嵩之

いちき串木野市 平石 剛

いちき串木野市 前田 貴子

神村学園専修学校作業療法学科一年 加治屋 桃果

神村学園専修学校作業療法学科一年 久留 洋一

始良市 塩満 清子

鹿児島市 杉本 葉子

鹿児島市 土岩 真勇智

鹿児島市 中村 孝子

霧島市 藏原 鴻

霧島市 児玉 久

霧島市 田代 裕子

きつちりとアイロンかけたシャツを着る傍若無人な夏にむ対くため

さ庭辺のホタル一匹病み長き娘の手にとまる淡き光に

父さんと嗚呼母さんと呼びし日々我ふるさとは良き支えなり

海幸の袋たずさえ串木野やバス待つ椅子に潮騒と居て

ふるさとのリアス海岸ぐるりと廻り父母の墓前に車走らす

ふるさとのさ庭にひっそり咲く花を手折りて母の墓前に飾る

マグロ船の別れに背の乳飲み児は愛らしく笑みてパパ送り出す

空襲すみかでの住処すみかさえ焼けねばと母のつぶやきだいに仕舞う

学び舎がいよよ消えゆく運命聞く齡重ねし巨木もろとも

役目終えゆるやかに舞ふ防霜ファン従者のごとく風の意のまま

霧島市 中馬 綱

薩摩川内市 奥園 和子

志布志市 内山 萬

西之表市 古澤 勝

日置市 伊東 ユリコ

日置市 荻 朝子

日置市 坂口 和世

日置市 益満 和子

南九州市 早川 ヨリ子

南九州市 若松 富士子

留学生の部

喧騒に負けない太陽キラキラと道駆ける子ら笑い声響く

神村学園専修学校日本語学科二年

ベルトラン
ニル
サルミエント
BELTRAN NEIL SARMIENTO

トントントントントンほんのり甘い東北菜祖母作る味吉林の味

神村学園専修学校日本語学科二年

キョウケツ
矯傑

応募校一覧 計六十校

※市町村は五十音順
学校は、小中高の順にて掲載

- 始良市
 - 始良市立蒲生小学校
 - 始良市立西始良小学校
- 阿久根市
 - 阿久根市立阿久根小学校
 - 阿久根市立三笠中学校
- 出水市
 - 出水市立大川内中学校
- いちき串木野市
 - いちき串木野市立串木野小学校
 - いちき串木野市立照島小学校
 - いちき串木野市立羽島小学校
 - いちき串木野市立旭小学校
 - いちき串木野市立生福小学校
 - いちき串木野市立荒川小学校
 - いちき串木野市立市来小学校
 - いちき串木野市立川上小学校
 - いちき串木野市立串木野中学校
 - いちき串木野市立串木野西中学校
- 指宿市
 - 指宿市立西指宿中学校
- 鹿児島市
 - 鹿児島市立伊敷小学校
 - 鹿児島市立西陵小学校
 - 鹿児島市立春山小学校
 - 鹿児島市立平川小学校
 - 鹿児島市立黒神中学校
 - 鹿児島市立坂元中学校
 - 鹿児島市立桜島中学校
 - 鹿児島市立武岡中学校
 - 鹿児島市立吉田南中学校
 - 学校法人原田学園鹿児島情報高等学校
- 鹿屋市
 - 鹿屋市立西俣小学校
 - 鹿屋市立細山田中学校
- 肝付町
 - 肝付町立岸良学園
- 霧島市
 - 霧島市立高千穂小学校
 - 霧島市立霧島中学校
 - 霧島市立陵南中学校
 - 私立鹿児島第一高等学校
- 薩摩川内市
 - 薩摩川内市立里小学校
 - 薩摩川内市立川内小学校
 - 薩摩川内市立平佐西小学校
 - 薩摩川内市立水引小学校
 - 薩摩川内市立川内南中学校
 - 鹿児島県立川内商工高等学校
- 曾於市
 - 曾於市立末吉中学校
- 十島村
 - 十島村立中之島小学校
- 中種子町
 - 中種子町立中種子中学校
- 西之表市
 - 西之表市立古田小学校
- 日置市
 - 日置市立伊集院北小学校
 - 日置市立伊集院北中学校
- 枕崎市
 - 枕崎市立桜山中学校
- 南九州市
 - 南九州市立松山小学校
- 屋久島町
 - 屋久島町立神山小学校
- 湧水町
 - 湧水町立栗野中学校
- 薩摩川内市立限之城小学校
- 学校法人神村学園高等部
- 学校法人神村学園中学校
- 学校法人神村学園中等部
- 鹿児島県立串木野高等学校
- 鹿児島県立串木野高等学校
- 学校法人神村学園高等部
- 学校法人神村学園中学校
- 学校法人神村学園中等部
- 学校法人神村学園専修学校日本語学科

萬造寺 齊（まんぞうじひとし） 明治19年（1886）羽島生れ。

明治38年(1905)18歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺齊あり」といわれる。

明治41年(1908)21歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。

東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鷗外を中心として『すばる』が発刊される。大正3年(1914)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き活躍した。戦後、歌集『萬造寺齊選集』10巻が刊行される。

大正7年(1918)31歳のときに郷里に帰る。

昭和32年(1957)7月9日、療養所で70歳で亡くなる。

同年11月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。

昭和35年(1960)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。

歌碑には、萬造寺齊の歌集から作家である佐藤春夫が選んで新村出博士が揮毫した3首の歌（※）と、友人である矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。



羽島崎神社境内にある歌碑



萬造寺 齊 生誕の地

※望郷歌

行かまほし悩みいたづき振りすてて

南の海辺遠きふるさと

ふるさとや海のひびきも遠き世の

こだまの如し若き日思へば

ふるさとの浜の砂原小石原

生きてふたたび踏まむ日なきか